

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	里地里山の特性評価の実施とこれに応じた保全活用の実施
手法名	知多半島における生態系ネットワーク形成の推進体制づくり
主体	地元NPO、地元大学、研究者、行政等
背景 (地域の課題)	愛知県では、県土の生物多様性を将来にわたって確保するため、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有する地域を核として、これらを有機的につなぐ「生態系ネットワーク」の形成に取り組んでいくこととしている。当面、県内3地域でモデル的に取組を進め、成果の検証を行うとともに、取組手法の確立を図った上で、県全域への普及を進めることとしている。
手法/方策の詳細	<p>モデル地区の一つである知多半島では、海から里山までの多様な環境をつなぐ生態系ネットワークを形成するため、地域を代表する環境要素ごとに指標生物を設定し、その指標生物の生息環境保全を通して、生態系ネットワーク形成につなげることを提案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海のある里山の指標種⇒カワウ 汽水域の指標種⇒ベンケイガニ類 湧水湿地の指標種⇒シラタマホシクサ 知多半島の自然を保全するための象徴種⇒ごんぎつね(キツネ)等を想定。 <p>今後、「知多半島いきものつながりんぐ協議会(仮称)」を設置し、計画作成、交流・連携、成果検証を行う予定としている。この協議会では住民、NPO、地元大学・研究者、企業、行政が連携し、それぞれの指標生物の生息環境保全を念頭に以下のような活動を進め、生態系ネットワークの形成をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 里山: 雑木林整備、竹林の伐採・炭化、害虫の防除 ため池: 池干し、外来種の除去、ビオトープづくり 湿地: 水源・水質の管理、湿地植生の管理 汽水域: 干潟・魚道の確保、下流における護岸の近自然化
手法・技術的視点	地域の特性に合わせた指標生物をおくことで、多くの住民への普及と多様な主体の参画を図る。

海のある里山 知多半島生態系ネットワーク形成 協働ロードマップ

※ 生態系ネットワークの形成とは、地域の生態系を健全に保全するため、生きものの生息・生育空間を適切に配置し、つながりを確保すること。



参考資料

里なび研修会in愛知 日本福祉大学准教授 福田秀志